

V 資料編

V-1 防災関連Webサイト

内閣府防災情報のページ http://www.bousai.go.jp/	内閣府防災担当のホームページです。我が国の防災に関する総合的な内容が豊富に掲載されています。
内閣府防災担当「みんなで防災」のページ http://www.bousai.go.jp/minna/	市民、学校、企業、町内会、ボランティア、NPO などが、防災の取組を考えていただく際、役に立つ情報やノウハウが掲載されているページです。
総務省消防庁 http://www.fdma.go.jp/	消防防災に関する情報が掲載されています。
総務省消防庁防災危機管理 e-カレッジ http://www.e-college.fdma.go.jp/	地域住民の方々、消防職員・消防団員、地方公務員等が、インターネット上で気軽に防災・危機管理に関して学ぶことができます。
地震調査研究推進本部 http://www.jishin.go.jp/main/index.html	地震の基礎知識、地震活動の評価等が掲載されています。
防災教育支援推進ポータル http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/bosai.html	防災教育の事例や関連情報が紹介されています。
みんなでつくる被災地学校運営支援サイト http://www.hisaichi-gakkoushien.nier.go.jp/	国立教育政策研究所と国立情報研究所によるサイト。被災地において必要となり得る学校教育の実施運営上の工夫などについて、教育関係者の知識と経験を共有する目的で作成されました。
気象庁 http://www.jma.go.jp/jma/	天気予報はもちろんのこと、地震・火山・津波・竜巻などの情報や過去の防災に関する情報が掲載されています。
宇都宮地方気象台 http://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/	栃木県の気象・災害に関する資料が掲載されています。
栃木県防災のページ http://www.pref.tochigi.lg.jp/kurashi/bousai/index.html	栃木県の防災に関する情報が掲載されています。防災メールの登録や、避難所の検索もできます。
くろしお教育サミット 防災学習ハンドブック http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kurosio/bousai3.html	千葉・静岡・和歌山・高知の4県で作成した防災教育に関する指導書です。

V-2 関連資料一覧

- 資料①：東日本大震災に係る県立学校の取組
- 資料②：被災地復興に係る児童生徒の活動事例
- 資料③：ホームルーム活動における指導案の例
- 資料④：放射線の影響に関するQ & A
- 資料⑤：引渡しカード（例）
- 資料⑥：学校施設の安全管理に関するチェック表
- 資料⑦：災害時伝言ダイヤルの利用方法
- 資料⑧：県立学校報告様式1、報告様式2
- 資料⑨：教育委員会への連絡に関する確認表
- 資料⑩：緊急時連絡先（記入用紙）
- 資料⑪：市町村別指定避難場所一覧表（県立学校関係）
- 資料⑫：地域災害対策活動拠点（県立学校）
- 資料⑬：災害時における市町連絡先

東日本大震災に係る県立学校の取組

資料①

本資料は、東日本大震災に係る県立学校の取組について各校から寄せられた情報をまとめたものである。

右の表は、報告のあった事例をのべ数で集計したものであり、各学校において様々な取組が行われている。以下では、取組の内容を6つの項目に分け、それぞれについて主な例を示す。

取組の内容	件数
現地での支援	30
交流・慰問	18
物品提供	28
義援金	131
校内啓発	99
その他	33
計	339

(平成24年2月末現在)

○現地での支援

学校行事や生徒会活動、部活動、有志による活動など、参加形態は様々であるが、ボランティア団体との連携を密に取りながら、瓦礫の撤去や民家での泥かき、避難所での炊き出し等を行った。教職員等による被災地ボランティア活動も行われている。

【取組の例】

学校名	期日	場所	参加者数(参加者)	取組の概要
宇都宮白楊高校	3月11日	本校体育館	30名(食品科学科生徒他)	避難した方へのすいとん、パンの提供を行った。
今市高校	3月28日～5月2日	気仙沼市内 石巻市内	1名(3年生)	ボランティア団体の募集に応じて参加した。
矢板東高校	4月7日	矢板市内	15名(生徒会役員他)	市内被災者宅を訪れ、高齢者宅の倒壊、落下した大谷石や屋根瓦の撤去作業に協力した。
益子芳星高校	4月16日・17日 23日・24日	益子町町内	20名(JRC部・家庭クラブ他)	震災で被害のあった益子焼登り窯の後片付け等を手伝った。
	4月29日～5月5日 11月3日・5日・6日	益子町「陶器市会場」	69名(JRC部・家庭クラブ他) 30名(JRC部・家庭クラブ他)	「益子陶器市」において地域の復興に協力した。観光案内やパンフレットの配布・地域清掃、募金活動等を行った。
鹿沼東高校	5月3～5日他	鹿沼フォレストアリーナ	40名(JRC部、生徒会役員他)	避難所となった近所の鹿沼フォレストアリーナを訪問し、様々な手伝いをした。
真岡工業高校	6月18日・7月25日 8月1日・8月8日	益子町内	12名(ボランティア部)	益子町内にある益子焼の窯元で、倒壊した登り窯の解体作業に協力した。
学悠館高校	7月1日	石巻市北上町十三浜相川地区	43名 (生徒36名、保護者2名、教員5名)	生徒からの要望を受け、2回ボランティアを実施した。 1回目は、被災地及びボランティアの状況について説明を開き、その後、重機で瓦礫撤去を行った跡地で、小さな瓦礫の収集分別作業を2時間ほど行った。 2回目は、個人宅の瓦礫撤去作業を4時間ほど行った。
	10月20日	宮城県七ヶ浜町代が崎地区	44名 (生徒34名、保護者1名、教員9名)	
	7月28日	岩手県陸前高田市	6名(JRC部生徒4名、教員2名)	
鹿沼南高校	7月21日～8月31日	石巻市内	12名(希望者)	鹿沼市社会福祉協議会窓口の被災地ボランティアに参加した。
壬生高校	7月23日	宮城県気仙沼市	3名(JRC部2名・顧問1名)	持参した物資(野菜)を仮設住宅の方に提供したり、民家の泥かきなどを行った。
小山城南高校	7月27日～28日	岩手県遠野市 陸前高田市	6名(生徒5名・顧問1名)	日本赤十字社栃木県支部の主催事業瓦礫撤去などの作業に参加した。
小山西高校	7月28日	岩手県陸前高田市	7名(JRC部7名・顧問1名)	県青少年赤十字高校連絡協議会の県役員生徒他で現地を訪れ、瓦礫撤去を行った。
矢板高校	7月28日	岩手県陸前高田市気仙町上長部	4名 (JRC同好会3名・顧問1名)	栃木県青少年赤十字指導者協議会、日本赤十字社栃木県支部から応募のあった被災地ボランティアに参加し、瓦礫等の撤去作業を行った。
さくら清修高校	7月28日	旧騎西高校	10名	社会福祉協議会主催「高校生福祉体験研修」において、コーヒー、かき氷提供の手伝いをした。
	8月18日	石巻渡破駅	6名	
烏山高校	7月31日	七ヶ浜町内	24名(希望者)	海岸の瓦礫処理や民家の泥かき、炊き出しや被災した方との交流を行った。
	10月1日	石巻市内	25名(希望者)	
	11月19日	石巻市内	15名(希望者)	
足利清風高校	9月10日～11日	宮城県石巻市	2名(普通科3年生)	平成23年度栃木ユースボランティア活動「とちぎから石巻に元気を！」に参加し、牡鹿半島で、瓦礫の片付けや漁具・木材・危険物に分別する作業を行った。
小山北桜高校	9月29日	東松島市内	40名(造園土木科1年生)	東松島市のJR仙石線沿いの草刈り作業を主体とし、海苔養殖業者の手伝いやアパートの瓦礫撤去を行った。
栃木農業高校	10月8日	宮城県本吉郡南三陸町	38名(希望者の一部)	志津川湾南側の戸倉地区において、瓦礫の撤去、ゴミの分別、草刈り作業を行った。

○交流・慰問

避難所への訪問では、学校の特色を生かした取組が見られた。また、直接的な交流活動とともに、応援メッセージの作成など、間接的な形での交流活動も行われている。

【取組の例】

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
鹿沼高校	3月中旬	鹿沼フォレストアリーナ	10名(野球部)	支援物資の仕分け作業を行うとともに、被災した小学生との交流活動を行った。
宇都宮中央女子高校	3月25日 ～3月31日	宇都宮市内福祉施設	6名(JRC部)	震災により出勤できない福祉施設の職員を補う形で高齢者と交流活動を行った。
真岡女子高校	4月5日 4月15日	真岡市自然教育センター 芳賀青年の家	15名(合唱部)	合唱部が避難所を慰問し、避難している方との交流を行った。
小山城南高校	4月16日	県南体育館	12名(JRC部)	避難家族の子どもたちと紙芝居やゲーム等の遊びを通して交流を行った。
盲学校	4月20日 4月27日	鹿沼総合体育館 フォレストアリーナ	2名	被災された避難者の方々へのマッサージ等を臨床実習の一環として行った。
足利高校	4月29日	名草セミナーハウス	42名(音楽部)	オーケストラ、合唱、ダンスなどを通して、避難所の方との交流を行った。
栃木高校	4月 ～5月10日	栃木市(長寿園、大平少年自然の家) 小山市(県南体育館)	27名(生徒会役員、学校祭実行委員)	春休み、土曜・日曜・祝日、放課後を利用して避難所を訪れ、学習支援や子どもとの遊びや子どもの相談を通じて支援を行った。また、生徒会掲示板を利用して活動の報告を行った。
黒磯高校	6月	校内	全校生徒	地元のパン業者が被災者に缶パンを無料で提供する義援活動を行った。その際、全校生徒が一人当たり1缶～2缶のラベルに被災者に応援メッセージを書くという活動を行った。
那須拓陽高校	6月20日 ～7月1日	校内	生徒会役員 食品化学科・食物文化科生徒	地元のパン業者が実施した缶パン支援の缶にメッセージを記載した。
烏山高校	8月28日	那須烏山市内	11名(希望者)	那須烏山市岩子地区仮設住宅での炊き出しを手伝った。
大田原女子高校	8月29日 ～9月14日	校内及び本校会議室	全校生徒、PTA 50名(生徒会役員、家庭クラブ役員、ユネスコ部、書道部)	PTAと協力し、千羽鶴(7,950羽)と寄せ書きを作成した。
矢板高校	9月29日	岩手県立宮古工業高校	30名(社会福祉科1年生)	社会福祉科の生徒が夏休みに作成した『まごころ人形』と寄せ書きを、被災した岩手県立宮古工業高校に贈呈した。
烏山高校	11月19日	校内	2名(福祉委員)	J Aからの米袋(11/19の被災地ボランティアで使用)の表紙を作成した。
大田原高校	12月11日	宮城県南三陸町 県立志津川高校	生徒会役員	南三陸町内の視察及び震災当日から現在までの志津川高校の学校・生徒の様子を聞くなど、生徒との交流を図った。
佐野高校	12月25日～28日	本校体育館 本校合宿所等	本校陸上部 10名 岩手県立宮古工業高等学校陸上部 14名	本校の寮を合宿所として提供し、本校生とともに合宿練習を行い、共同生活をする中で交流を深めた。なお、参加生徒の経費については、佐野高校、本校陸上競技部保護者会、本校陸上競技部後援会が負担した。
佐野松陽・松桜高校	1月18日	石巻市万石仮設住宅団地ふれあい拠点センター	17名(流通経済科2年、商業科3年)	石巻市役所福祉部仮設住宅運営管理室の協力の下、生徒が商品開発した「おかき」400袋を被災地に持参して、「おかきでげんき」をキャッチフレーズに、仮設住宅で生活する被災者の方々およそ150人との交流を行ってきた。

○物品提供

物品の提供においては、文房具や辞書などの学用品を寄付する学校が多かった。また、各学科の専門性を生かした支援も行われている。

【取組の例】

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
栃木工業高校	4月18日(11台) 5月16日(5台) 12月15日(5台) 12月16日(4台)	校内	15名(福祉機器製作部)	使用されなくなった「車イス」を、校内で修理・再生し、宮城県三陸町、岩手県一関市の福祉施設などの被災地に提供した。

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
宇都宮白楊高校	10月	校内	5名(食品科学科生徒他)	被災地高校の文化祭を盛り上げるため、宮城農業高校へ手づくりラスクを提供した。売上金は全額寄付した。
矢板高校	11月10日	福島県立会津坂下高校内福島県立双葉翔陽高校	9名(農業クラブ9名、校長、顧問2名)	被災した福島県立双葉翔陽高校の一部の生徒が現在学んでいる会津坂下高校を訪問し、義援米として本校で育てたコシヒカリ10俵(600kg)と矢高りんご1箱を贈呈した。

○義援金

義援金活動の主となるものは生徒会活動であり、各校では、生徒会の呼びかけに応じて、クラスや昇降口等での募金活動が行われている。また、生徒会役員やJRC部員等を中心とした、駅等での街頭募金も行われている。また、多くの来場者が集まる学校祭での義援金活動も多い。入場口やイベント会場への募金箱の設置やグッズ販売・バザー等の収益を寄付する例も見られる。音楽部においては、演奏会をチャリティーコンサートとして実施する義援金活動も行われている。義援金を呼びかけるポスターを作成している学校もあった。

【取組の例】

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
宇都宮工業高校	3月末～	校内	全校生徒	被災者支援を目的に、生徒会でロゴ入りTシャツを作り全校生徒に販売し、その利益を義援金として送る。
足利工業高校	4月29日 ～5月3日	足利市内	造形部	足利市活性化事業(チャレンジショップ)にてオリジナル商品の販売益金を義援金として送った。
足利清風高校	4月29日 ～5月1日	足利学校南側の空き店舗	生徒会役員他	足利市内の高校生たちが店舗を企画運営する「第4回学生チャレンジショップ」(足利市、同実行委員会主催)において、本校は例年の市内の銘菓に加えて、東北地方の被災地を応援するために青森・秋田・岩手の名産品などを販売し、売上金は全額、義援金として寄付した。
佐野高校	8月11日	校内	9名(手芸部)	不要になった布を回収し、巾着袋を制作。その中に手作りクッキーを入れて学校祭にて販売した。その売り上げについて、材料費を除く全てを募金した。
上三川高校	9月～10月	校内	美術部	美術部生徒がデザインしたTシャツを、同窓生、保護者、生徒に販売しその利益を義援金とした。
黒磯高校	9月3日	校内	全校生徒・来校者 インターアクトクラブ	学校祭でのチャリティーうちわ、チャリティーTシャツ販売による義援金活動を行った。また、インターアクトクラブ員がチャリティーミサンガを販売し、義援金活動を行った。
栃木女子高校	10月3日		美術部	第20回「まんが甲子園」最優秀賞の賞金30万円を全額寄付した。
聾学校	10月15日	校舎内廊下	全校幼児児童生徒 教職及び来校者	学校祭当日に募金箱を校内に設置し募金活動を行った。また、本校の子どもたちのメッセージも併せて被災地に送った。

○校内啓発

防災教育の一環として、各校では防災避難訓練を年間指導計画に位置付けており、地震及びそれに伴う火災を想定した訓練を実施する学校が多かった。避難後には、消防署署員や校長等による防災講話を行い、消火器による消火や起震車による地震体験なども実施している。また、防災に関する講演会や被災地ボランティアの体験を伝える報告会も実施されている。広報誌や新聞、ポスター等を発行し、啓発に努めている学校もある。

【取組の例】

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
高根沢高校	5月1日 ～10月31日	校内	全校生徒	生徒会が中心となり、全校生徒に節電を呼びかけやポスターを掲示して節電に対する意識を高めた。
小山西高校	5月10日 ～5月12日	校内	21名(JRC部)	JRC部員が東日本大震災被災状況や、支援状況を示すパネルを作成。以後様々な活動場面に持参して展示した。
	5月20日 7月15日 10月17日	校内	21名(JRC部)	JRC部員が全生徒配布の「JRC新聞」を隔月で発行し、震災関連の情報を提供した。
	6月27日 11月22日 2月27日	校内	全校児童生徒	火災、震災を想定した避難訓練を実施した。職員に実施日時を予告した上での訓練、予告なしでの訓練、東日本大震災時の停電を考慮した、一斉放送ができない前提での避難訓練、の計3回の研修を行った。
栃木女子高校	7月7日	校内	全校生徒	避難訓練後、本年度は消火器・煙筒体験に加え起震車体験も実施した。

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
学悠館高校	①7月14日 ②11月4日 ③11月12日 ④7月23日 ⑤10月23日	①本校会議室 ②本校地歴公民室 ③本校体育館 ④栃木市市民活動センター・くらら ⑤栃木市総合運動公園体育館	①70名(生徒・保護者・教員) ②40名(生徒・教員) ③全校生徒 ④5名(生徒4名、教員1名) ⑤10名(生徒9名、教員1名)	被災地でのボランティア活動実施後、校内外において報告会を行った。目的は現地の被災やボランティア活動の様子を少しでも多くの人に伝えることであった。校内では実施後すぐに報告会が行われ、希望する生徒・保護者・教職員が参加し、報告を聞くだけでなく、これから自分たちにどんな支援ができるかについて話し合った。学校祭では全校生に向けて、参加者代表生徒が報告を行った。校外では、市民活動センターで行われた「災害支援3.11 行動した人の話を聞く」のシンポジウムに参加し、他の市民ボランティアの方々と意見交換を行った。また、10月の「とちぎ協働まつり」では、市民の皆さんの前で、被災地の状況やボランティア活動の内容について報告した。
小山南高校	7月20日	校内	全校生徒	独自に作成したDVD映像を使用し、生徒に対しての啓発活動を行った。
那須清峰高校	8月29日	学校周辺	380名(生徒・保護者・職員)	平成18年8月26日に那須地方で発生した大雨による水災害を記念して、生徒・保護者・教員で、災害時の協同を企図した地域の清掃活動を実施した。
宇都宮中央女子高校	9月11日	校内	全校生徒	災害地ボランティア活動に参加した福祉委員の3年生が東日本大震災に関連し、私たちができることについて福祉委員会の広報誌で報告した。
学悠館高校	10月1日	本校	全校生徒・保護者	被災地でのボランティア活動について、PTAが中心となって特集号というかたちで報告を作成、全保護者に配布した。
烏山高校	10月5日	体育館	全校生徒	東日本大震災で被災し、原発事故により那須烏山市で避難生活を送っている方による講演会を実施した。
聾学校	10月26日	教室	小学部5～6年	東北の大学から来た教育実習生に依頼し、写真や当日の新聞などを使い、実体験を語ってもらった。
	10月27日		中学部1～3年	
	1学期	教室	2名(小学部6年)	今回の一連の災害記事を、各自スクラップをして、関心のあるところや疑問に感じたことを書いて貼り出した。それぞれの興味のあるテーマで取り組み、たくさんの新聞を基にまとめたり、校内でのアンケート結果をまとめて掲載した。
2学期	廊下	中学部1～3年		

○その他

防災マニュアルや緊急時における校内体制の見直し等の取組についての回答があった。ここでは児童生徒の活動に関わるものを挙げておく。

【取組の例】

学校名	期 日	場 所	参加者数(参加者)	取 組 の 概 要
宇都宮商業高校	6月	校内	職員	ホームページ運営委員会を立上げ、ホームページを再構築し、内容を充実させるとともに生徒・保護者への緊急連絡体制を整えた。
学悠館高校	9月3日	本校会議室 体育館	101名 (生徒24名 地域住民63名、 教職員14名)	防災を通しての地域連携を目的に、JRC部が平成21年度より毎年開催してきた。今年は、震災の状況を受けて「となりのお年寄りと一緒に参加してみませんか」をテーマに開催した。災害時高齢者生活支援講習を中心に、避難所としての本校の施設案内などを行った。
さくら清修高校	9月8日	さくら市体育館	6名 (3年授業選択者)	社会福祉協議会主催「さくら市福祉祭り」において、石巻の特産物販売の手伝いをした。

「被災地支援のためのボランティア諸活動」 栃木県立足利清風高等学校

1. 活動の概要

①義援金の募金

平成23年3月23日・24日に、生徒会役員が東日本大震災の甚大な被害を知り、「被災した皆さんのために私たちのできることは何か」についての意見を出し合い、「被災地の人々のために私達のできることをやりましょう」というスローガンのもと、看板や募金箱を作成し、校内に立って募金活動を行った。

②避難所設置ボランティア

本校が統合される前の旧足利西高校の校舎跡に、福島県からの避難者のための避難所を開設することになった。その準備のため、春休み中の3月31日に、畳を約600枚、すべての教室に搬入することになり、ホームページや連絡網を使って生徒などにボランティア参加を呼びかけて作業を行った。

③チャレンジショップにおける被災地支援

足利市内の高校生・専門学校生が、市内中心街の空き店舗を活用し、市の活性化を目指し、生徒たちが企画運営する「第4回学生チャレンジショップ」（足利市、同実行委員会主催）に、本校は4月29日～5月1日に参加した。例年は、本校が商品開発をしたものも含めて市内の銘菓を販売するが、本年はそれらに加えて、市内の地場産センター・商工会議所からの要請を受け、東北方面（青森・岩手・山形3県）の特産品を販売し、「足利清風高校は東北を応援します」のスローガンのもと、被災地支援を行った。

④栃木ユースボランティア活動

夏休み中に「芳賀青年の家」で開かれたボランティア研修会に参加したメンバーを対象に、栃木県教育委員会主催、平成23年度栃木ユースボランティア活動「とちぎから石巻に元気を！」が9月10日～11日に行われ、本校生徒2名が参加した。事前の研修を受けた後、現地ではおもに牡鹿半島で、がれきの片付けや漁具・木材・危険物に分別する作業

を行った。

2. 活動の成果等

①義援金の募金

2日間で集まった金額に、職員や同窓会、ホームルームで行われた募金もあわせて、総額20万円余りを日本赤十字等に送った。この活動がこれ以降の一連の生徒たちによる活動の契機となった。この活動状況は、3月25日付地元紙「両毛新聞」等に掲載された。

②避難所設置ボランティア

春休み中にもかかわらず、呼びかけに応じて全校生徒の約半数が集合し、あわせて卒業生や保護者の有志も加わって、午後いっぱい避難所の準備作業を終了できた。

③チャレンジショップにおける被災地支援

事前に新聞報道をしていただいたこともあって、大勢の方に来店していただき、東北地方の物産を無事完売することができた。また、当初の計画どおり、収益はすべて被災地に義援金として寄付した。このチャレンジショップの様子は、5月13日の地元紙「下野新聞」をはじめ「栃木よみうり」にも掲載され、地元ケーブルテレビでも紹介された。

④栃木ユースボランティア活動

ボランティア活動に参加した生徒が、12月の課題研究等発表会の最後に、活動の内容を全校生徒に報告した。PowerPointを用いて現地の様子をスクリーンに映しながらの説明は説得力があり、生徒たちは熱心に聞き入り啓発されていた様子であった。



チャレンジショップで東北を支援する生徒たち

「空飛ぶ車いす」活動

栃木県立栃木工業高等学校

1. 活動の概要

日本では「車いす」が老人ホーム等から年間5万台以上廃棄されています。一方、アジアでは原則「自費購入」のため「車いす」が高価で購入できない方々が大勢います。こんな方々に修理した「車いす」をプレゼントしていますが、東日本大震災被災地にも贈りました。

(贈り先)

宮城県南三陸町の高齢者施設	16台
岩手県一関市の高齢者施設	9台

2. 活動の成果等

「モノづくり」を学ぶ生徒達は、まだ使える「車いす」が捨てられるのは「もったいない」と言います。そしてその「車いす」を自分達の得意な工業技術で再生して、誰かに役立ててもらいたいと考えています。手渡しリレーにより世界中で「車いす」が再び活躍することで、生徒達は「モノの大切さ」と「奉仕の精神」を学び、「国際感覚」や「達成感」等を実感することができます。さらには自分の存在価値をも確認できます。

生徒の声

「使ってくれる人のことを考えて修理しています。それは、以前車いすを直接手渡したとき、その人はとても喜んでくれました。その日から、そのときの想いを心の支えとして修理に向き合っています。」(機械科2年)



車いすの修理活動

日本で使われなくなった車いすを工業技術を駆使して修理。パンクしないソリットタイヤに履き替え、部品を交換、錆を落とし、シートをきれいに拭いて、試乗して不具合がなければ完了。



梱包した車いす

新品同様に修理した車いすを被災地は無傷で輸送するために、エアークッションでダブル梱包し、ガムテープで補強。これは出荷を待っている車いす。

「伝える～被災地ボランティアの体験から～」 栃木県立学悠館高等学校

1. 活動の概要

本校では生徒達からの強い要望を受け、2度の被災地ボランティアを実施し、多数の生徒・保護者が参加しました。その後、被災地の状況をはじめ現地での様々な経験を、学校内だけでなく、地域住民の方々にも伝えていく活動を展開しています。

(1) 被災地でのボランティア活動

①第1回

- ・期日 平成23年7月1日(金)
- ・場所 宮城県石巻市北上町十三浜相川地区
- ・参加者 生徒36名、保護者2名、教員5名
- ・活動概要 早朝、石巻ボランティアセンターに到着。現地ではボランティアリーダーの方より、被災状況およびボランティアの活動の様子について説明を聞く。昼食後、2時間ほど細かいがれきの撤去作業を行う。

②第2回

- ・期日 平成23年10月20日(木)
- ・場所 宮城県七ヶ浜町代が崎地区
- ・参加者 生徒34名、保護者1名、教員9名
- ・活動概要 七ヶ浜ボランティアセンター到着後、マッチングを行い現地へ。個人宅のがれき撤去作業を昼食をはさんで4時間行う。



石巻市相川地区でのがれきの撤去作業

(2) 被災地の状況、体験についての報告活動

①校内報告会

第1回は7月14日、第2回は11月4日に行われました。ボランティアに参加できなかった生徒や教員も多数参加し、今後の活動についても話し合いました。また、11月12日の学校祭でも、参加代表生徒が全校生に現地状況について報告しました。

②地域での報告会

7月23日には、栃木市市民活動推進センターで、

今回の震災に係わる様々な市民ボランティア団体の皆さんと活動報告および意見交換を行いました。

さらに、10月23日のとちぎ協働祭では、代表生徒9名が、被災地でのボランティアについて、市民の皆さまの前で発表し、状況を伝えました。

(3) 防災講座の開催

本校では3年前から、JRC部が中心となって地域住民の皆さんと一緒に防災についての活動を行ってきました。今年、9月3日に防災講座を実施しました。今回の震災では避難所で高齢者が体調を崩す事例が多かったことを受けて、テーマを「となりのお年寄りと一緒に参加してみませんか」に設定し、災害時高齢者生活支援講習を中心に行いました。地域住民63名の方を含めて、生徒・教職員あわせて101名が参加しました。



防災講座での災害時高齢者生活支援講習

2. 活動の成果等

(1) 生徒の感想

- ・私一人がやれることは、限りなく小さなことですが、協力して大きくなるのだなと実感しました。
- ・人の絆の大切さ、日常の大切さ、自分自身のちっぽけさに気づけました。手伝ってみてわかったことは、お金ではなく人の手が必要だということ。
- ・自分一人で何か役に立ったのかなと思いました。でも、自分のやったことに少し自信がもてました。
- ・私たちが、今の自分の生活を不十分だと感じていても、被災地ではもっと辛い思いをしているんだと感じました。それをもっと多くの人に知ってもらい、伝えていくことが大切だと思いました。

(2) 今後の活動について

生徒及び教職員から、今後の被災地支援活動について様々な意見が集まっており、今後も、それを生かした活動を継続・実施していくこととしました。

ホームルーム活動における指導案の例

1 主題 災害図上訓練(DIG)

DIGとは、Disaster(災害)、Imagination(想像)、Game(ゲーム)の頭文字をつなげたものです。「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」ということがこの訓練の目的です。大きな地図を囲みながら、参加者全員で災害時の対応策などを考えて見ましょう。

2 ねらい 地域での大災害を想定し、積極的に災害の対応策を考える。

3 展開

用意するもの

- ・学校周辺の地図(1/1500～1/5000) ・透明シート ・セロハンテープ
- ・はさみ ・カッター ・定規 ・油性ペン ・ティッシュペーパー
- ・ドットシール ・災害ビデオ ・学校内の消火設備などの設置場所の図
- ・地域のハザードマップ ・昔の地図 など

学習内容	指導上の留意点	資料
1. DIGの概要を理解する。	・どのような災害を想定し、どのような立場で取り組むかを理解させる。	・DIG紹介資料など
2. 防災情報を取得する。	・指導者から、防災に関する情報を提供し、話し合いの材料とする。	・災害の様子を伝えるビデオや防災活動体験者の講演など ・自分たちの地域で発生した災害の資料
3. 5～10人くらいのグループを作り、リーダーと記録係を決める。	・グループで分担協力して作業を行うこと。 ・個人のプライバシーに関することは扱わないこと。	
4. 地域を知るための以下のような情報を書き込み基本地図を作成する。 ①河川などの自然エリアとの境界線 ②公園などの緑地 ③役場、公民館、警察署、消防署、病院などの公共施設 ④避難所、防災倉庫、救護所、消防水利、商店、などの施設 ⑤地域の防災リーダー、防災関係者などの人材情報	・地図の大きさにより、書き込む情報を選択させる。 ・色分けは一定のルールを決めさせる。 ・付箋紙やカラーピンなどを使って立体的な表現をしてもよい。	・透明シート ・セロハンテープ ・はさみ ・カッター ・定規 ・油性ペン ・ティッシュペーパー ・ドットシール ・付箋紙 ・カラーピン
5. 災害時の状況をイメージしながら、次の情報を書き加える。 ①被害を受ける恐れのある地域 ②災害により使用できない恐れのある道路や橋 ③危険が予想される場所(危険物を取り扱う場所) ④その他、地域の特性に応じて必要と思われる場所 ⑤地域のハザードマップなど	・透明シートを張り替えてたり、重ねたりして、情報の分類をさせる。	
6. 作成した地図を見ながらテーマに応じた意見交換を行う。	・学校や地域の防災関係施設の配置バランスや、災害に対する弱点、防災対策など、地図作成を通して気づいたことや感じたことを自由に話し合わせる。 ・付箋紙にメモしたものを、地図上に貼らせる。	・作成した地図 ・付箋紙
7. グループごとに話し合った内容について、発表する。	・様々な状況(昼間、夜、真夏、真冬、雨など)を想定した対策が必要になることに気づかせる。 ・大規模な災害が発生したときの状況を具体的にイメージし、どのように対応するか臨場感ある討論を行わせる。	

【参考URL】

災害図上訓練(DIG)のページ <http://www.e-dig.net/0101.html>

静岡県地震防災センター <http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/manabu/dig/index.htm>

「放射線の影響に関するQ&A」

— 放射線を指導する教師の基盤として —

教職員向けブックレット

栃木県教育委員会 平成23年12月

東日本大震災により発生した福島第一原子力発電所の重大事故後、放射線に関する様々な不安の声が寄せられています。国民全体が放射線に対して正しい知識を持っていなかったという反省の声も上がっており、多くの情報が交錯する中で、安心を伝えようとする情報が正しく理解されなかったり、風評による被害が起こったりしています。

そもそも、私たちは自然界からの放射線を受けていることもあり、人体が受ける放射線量が「0」になることはありません。また、必要以上に怖がることは過度のストレスをためることになり、特に子どもたちの成長に悪い影響を与えてしまう危険を指摘する専門家もいます。

これからは、放射線を必要以上に怖がったり、漠然とした不安を持ち続けたりするのではなく、怖がらなくて良いことと怖がるべきことを区別できるようにする、つまり「正しく怖がる」ことが大切です。そのためには放射線を正しく理解し、身の回りの放射線と上手に付き合っていくために、何をすべきか考えていく必要があります。

この資料は、文部科学省が作成した児童生徒向けの放射線副読本を補完し、児童生徒に寄り添う教職員が放射線に関する正しい基礎知識を得ることを目的に、現時点での文部科学省などの示した資料や県内の放射線に関する専門家の意見を参考に作成しました。各学校や地域の実情に合わせて冷静にこの問題に向き合い、児童生徒及びその保護者に対して、学習環境の安全を説明したり、放射線の影響から身を守る方法を伝えたりする際の参考資料として活用し、児童生徒が「安心」できる状況を積極的に作り出していだけるようお願いします。



Q1. 放射線とはどのようなものですか？放射能とどう違うのですか？

A1. 放射性物質から出ているものが放射線です。目には見えませんが、においもありません。体にも感じません。また、放射能とは、物質が放射線を出す能力のことです。

- 図1のように、放射線をホタルから出る光にたとえると、イメージしやすいでしょう。ただし、放射線にはいくつかの種類があります。
- 放射線は、身の回りにもともとあるものです。放射線は、地面や岩石、人間の体からも出ていますし、宇宙からもやって来ています。
- 「放射能」とは放射線を出す能力のことですが、正確に使われていない場合も見受けられます。たとえば「放射能漏れ」はよく使われる表現ですが、放射性物質が外部に漏れたのか、放射線が外部に漏れたのかは、区別して考える必要があります。

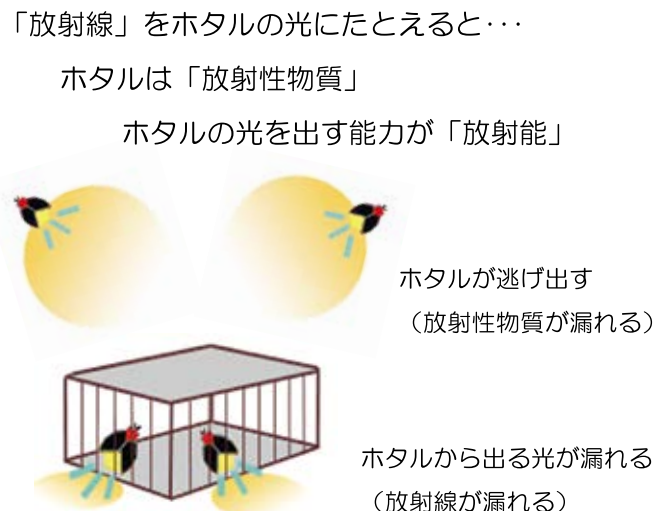


図1 放射線、放射性物質、放射能の違い

Q2. 「ベクレル」と「シーベルト」は、どう違うのですか？

A2. 放射線を出す能力（放射能）の量を表す単位を「ベクレル（Bq）」といい、放射線による人体への影響を表す単位を「シーベルト（Sv）」といいます。

○ 「ベクレル（Bq）」について

図1のホタルの例で考えると、光を出すホタルの能力（放射能）をあらわす単位が「ベクレル（Bq）」です。放射性物質の原子核が1秒間にいくつ壊変する（原子核が壊れて別の物質に変化する）か、数えたものを「ベクレル（Bq）」という単位で表します。土壌や食品1kg中にどれくらいの放射能を持つかを表す〔Bq/kg〕という単位がよく使われます。

○ 「シーベルト（Sv）」について

「シーベルト（Sv）」は、放射線が人体に及ぼす影響の度合いを表す単位で、被ばくの総量（放射線量）を表します。また、弱い放射線の場合は、「ミリシーベルト（mSv）」や、その1000分の1である「マイクロシーベルト（ μ Sv）」を用います。放射線量を比較するときは、数字の大きさだけでなく、単位と時間に注意する必要があります。たとえば、1マイクロシーベルト毎時（1 μ Sv/h）は、1時間あたりに1マイクロシーベルトの被ばく量ということになります。

※ 1マイクロシーベルト（1 μ Sv）の1000倍が1ミリシーベルト（1mSv）です。

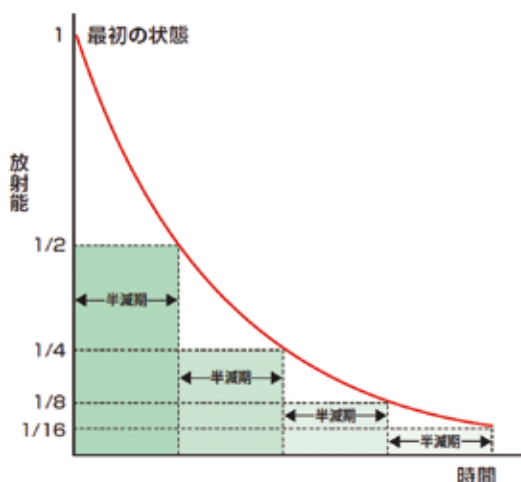
Q3. 放射線をなくすことはできないのですか？

A3. 時間がたつにつれて、放射性物質のもつ放射能は弱くなっていきます。このように放射性物質が出す放射線は徐々に「0」に近づきますが、Q4に示すように自然界からの放射線は「0」にはなりません。

○ 放射性物質の原子核は時間がたつとともに壊変し、そのときに放射線を出します。そのため、時間がたつにつれて放射能は徐々に弱くなっていきます。放射能が半分になるまでの時間を「半減期」といいます。

○ 図2のグラフを見てください。最初の放射能を「1」とすると、1/2になるまでの時間が「半減期」です。半減期は放射性物質ごとに異なります。今回の原子力発電所の事故で主に放出された放射性物質は、核燃料のウランが壊変して生じたヨウ素とセシウムです。表で比べると、ヨウ素131からの放射能が8日で1/2になるのに対して、セシウム137は30年もかかることがわかります。

では、セシウム137は60年たったら「0」になるかということ、そうはなりません。セシウム137は、30年で1/2になりますが、次の30年で1/2の1/2、つまり1/4になるのです。これを繰り返していき、徐々に「0」に近づいていきます。



放射性物質	放出される放射線*	半減期
トリウム232	α, β, γ	141億年
ウラン238	α, β, γ	45億年
カリウム40	β, γ	13億年
炭素14	β	5730年
セシウム137	β, γ	30年
ストロンチウム90	β	28.7年
コバルト60	β, γ	5.3年
セシウム134	β, γ	2.1年
ヨウ素131	β, γ	8日
ラドン220	α, γ	55.6秒

*壊変生成物（原子核が放射線を出して別の原子核になったもの）からの放射線を含む

出典：(社)日本アイントープ協会「アイントープ手帳10版」

図2 放射性物質と半減期

「知ることから始めよう 放射線のいろいろ 中学生のための放射線副読本」(文部科学省)より

Q4. 身の回りの放射線、放射性物質にはどのようなものがありますか？

A4. 私たちは、普段から自然界からの弱い放射線を受けています。また、食物や私たちの体の中にも微量の放射性物質が含まれています。

○ 自然界から1年間に受ける放射線量は世界平均で約2.4ミリシーベルトであり、日本平均では、約1.5ミリシーベルトです。

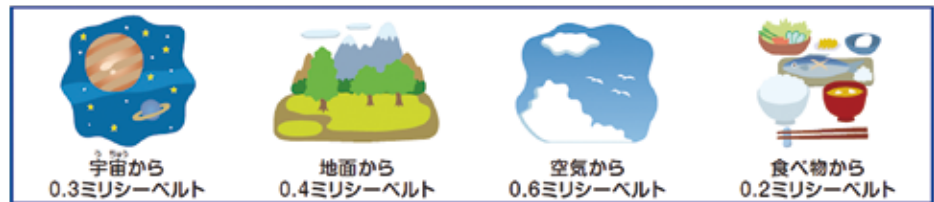


図3 日本における自然界から受ける放射線量（年間）
「放射線について考えてみよう 小学生のための放射線副読本」（文部科学省）より

○ 実は、私たちの身の回りの自然界には、いくつもの種類の放射性物質が存在しており、最も多いのはカリウム40です。私たち人間

は1日に2g程度は摂取しなければカリウム欠乏症になりません。天然のカリウムには0.0117%の放射性同位元素（カリウム40）が含まれており、1gのカリウムは30.4ベクレルの放射能を持ちます。右のような計算をすると、人間の持つ放射能は1kgあたり100Bq以上になります。これらの物質は体に取り込む量と体から排出される量が釣り合い、ほぼ一定に保たれています。

体重 60kg の人間の持つ放射能
→体内のカリウム量は 0.2%
 $60(\text{kg}) \times 0.2(\%) = 120(\text{g})$
→そのカリウムの放射能は
 $120(\text{g}) \times 30.4(\text{Bq}) = 3,648(\text{Bq})$
カリウム 40 以外の放射性同位元素を考慮すると合計で約 7,000Bq になる。
→人間の持つ放射能（1kg 当）は約 116.7(Bq)/kg

○ 体内に取り込まれる放射性物質は微量であっても、ベクレルという単位は1秒間に壊変する原子核の数であるため数字が大きくなります。数百ベクレルだからといって直ちに危険だということではありません。

○ 食品等の暫定規制値は、自然界に存在するカリウムなどの放射能を除いたもので、自然界に存在しない放射性セシウムなどに限定しての規制の目安であることを理解しておく必要があります。

なお、暫定規制値内であれば、カリウムなどからの放射線は比較的安全で、セシウムなどから出る放射線が特に有害ということはなく、放射線量が同じであれば人体への影響は同じです。

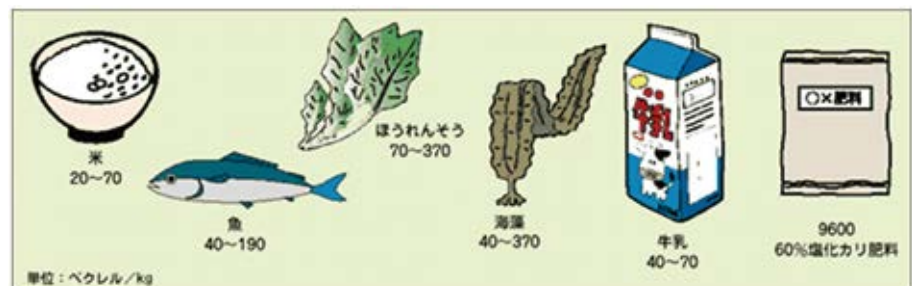


図4 1kgの食物や肥料に含まれるカリウム40の放射能

出典: (財)日本原子力文化振興財団原子力教育支援情報提供サイト「あともん」HP より

Q5. 福島原発事故のあとに放射線量が高くなったのはどうしてですか？

A5. 原子力発電所から放射性物質が出て、風に乗って広い範囲に広がって地表に降ったためです。

○ 事故により放出された放射性物質の状況などについては、下記のホームページから確認できます。なお、放射線量を考える際は、福島原発から飛散したセシウムなどの放射性物質が出す放射線量だけなのか、カリウム40などの天然に存在する放射性物質が出す放射線量を含むのか、注意が必要です。

・文部科学省HP「放射線モニタリング情報」「航空機による広域のモニタリング」

(http://radioactivity.mext.go.jp/ja/monitoring_around_FukushimaNPP_MEXT_DOE_airborne_monitoring/)

・栃木県HP「ホーム > くらし・環境 > 防災 > 東日本大震災に関する総合情報 > 環境放射能の調査結果」

(<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kinkyu/houshasen.html>)

- 事故で大気中に放出された放射性物質は、細かいちりのようなものです。風向きによって広がり、地表に降下しました。
- 事故後約2か月間は、栃木県内でも放射性ヨウ素と放射性セシウムなどの放射性物質が降っていたことが宇都宮市の県保健環境センターで観測されていますが、それ以後はほとんど降っていません。
- 図5は、文部科学省のホームページで公表された、放射性セシウムの分布の様子です。

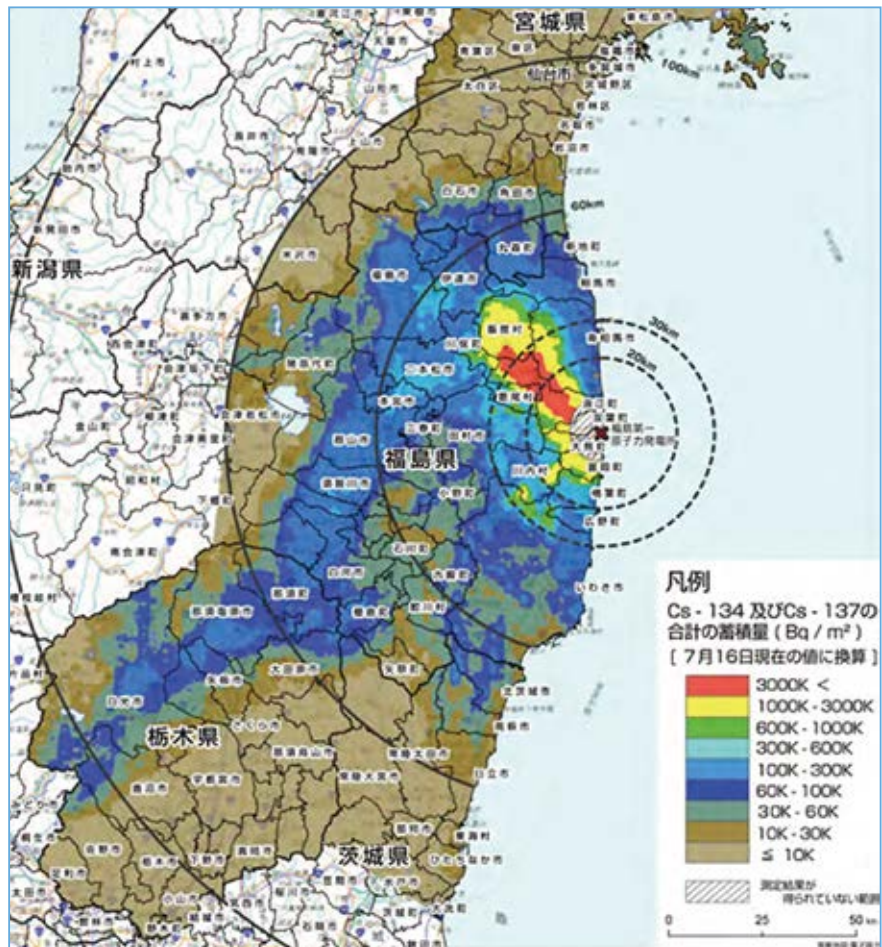
図5

福島第一原子力発電所から100,120 kmの範囲及び宮城県北部並びに栃木県南部の地表面に沈着したセシウム134、137の濃度の合計

出典

文部科学省による放射線量等分布マップ（放射性セシウムの土壌濃度マップ）の作成結果を踏まえた航空機モニタリング結果（土壌濃度マップ）の改訂について（平成23年8月30日）より

http://radioactivity.mext.go.jp/ja/1940/2011/08/1940_0830_1.pdf



Q6. 放射線量の高い場所（ホットスポット）は、どうしてできるのですか？

A6. 地表面に降った放射性物質の量が多い場所や、放射性物質が移動して多くなった場所は、放射線量が高くなります。

- 地表に降下した放射性物質の多い場所は、放射線量が高いため「ホットスポット」と呼ばれます。また、数m²の狭い場所で、雨や風などにより、放射性物質が移動して放射線量の高いところができることがあり、このような場所を「マイクロホットスポット」と呼ぶことがあります。
- たとえば、屋根の上の放射性物質は、雨によって雨どいを通して地表に移動し、地面や排水溝に流れ込みます。その水が流れずにたまりやすい場所や、雨樋から直接土壌に染み込むような場所は、放射性物質が蓄積して、マイクロホットスポットになりがちです。
- マイクロホットスポットの放射線量を測定するときに、線量計によっては、大地からの放射線も計測します。大地からの放射線は、地域によって差があります。
- 計測する際は、線量計の説明書を読んで正しく扱うことが大切です。また、測定の仕方は同じでないと、ほかの地点と比較ができないことに注意してください。

Q7. 「放射線被ばく」というと恐ろしい感じがしますが、危険ではないのですか？

A7. 「放射線被曝（ひばく）」とは、放射線に曝（さら）される、つまり放射線を受けることです。自然放射線や病院で受ける放射線は人体に影響が出ない範囲であり、問題ありません。

- 体の外にある放射性物質から放射線を受けることを「外部被ばく」といいます。これに対して、体内に入った放射性物質から出る放射線を受けることを「内部被ばく」といいます。

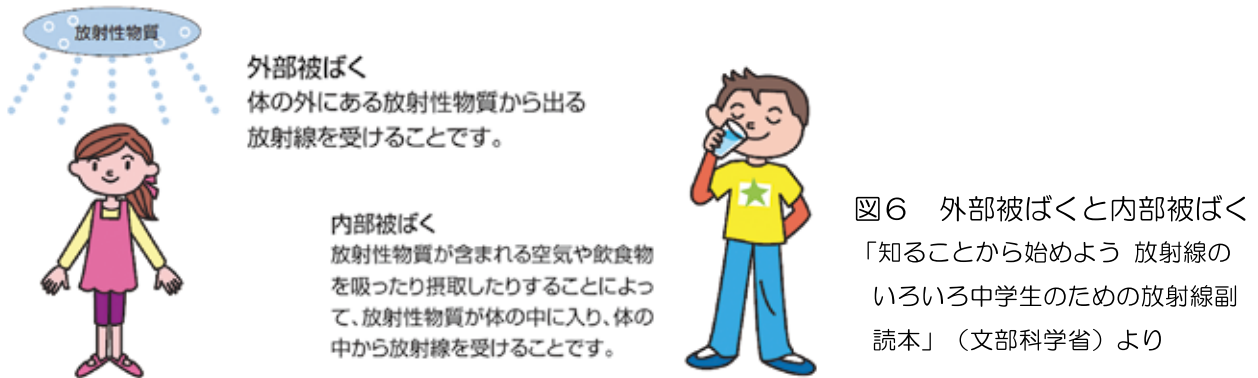


図6 外部被ばくと内部被ばく
「知ることから始めよう 放射線の
いろいろ中学生のための放射線副
読本」(文部科学省)より

- 原爆のイメージから「被ばく」という言葉が恐れられるのだと思いますが、Q4で説明したように、私たちは放射線を日常的に被ばくしています。また、福島原発事故後に放射線量が局所的に高くなった場所(マイクロホットスポット)に近づかない、長い時間その場所で過ごさない、遮へい効果の高いコンクリート製の建物などに入る、などにより、外部被ばくをかなり防ぐことができます。
- これに対して、内部被ばくを避けた方がよいとされる理由は、体内に入った放射性物質の原子核が壊変するときに出る放射線が、細胞のDNAを傷つけることになるためです。

Q8. 放射性物質が体に入ると、何年か後にがんになるって本当ですか？

A8. わずかに確率的な影響が高まるといわれていますが、がんになる原因である老化、生活習慣、喫煙、ウィルス、細菌などによる影響が大きいといわれています。

- 人間には放射線によって受けたDNAへのダメージを修復する複数の機能が備わっているため、ダメージが少なければがんになることはありません。ただ、影響が出やすいのは細胞分裂の盛んな乳幼児や胎児であるとされているため、不安が広がっています。
- 今回の福島原発事故でも放射性ヨウ素は放出されましたが、半減期が短く、現在では栃木県内で検出されていません。
- 放射性セシウムについては、セシウム134の半減期は2.1年、セシウム137の半減期は30年であることから、体内に取り込まないように注意するとよいとされています。
- また、体内に入った放射性物質は、徐々に糞尿とともに体外に排出されます。セシウム137は、成人では約100日、10歳児では約50日で半分の量になります。
- 日本では、がんによって死亡する人の割合は約30%であり、国際放射線防護委員会の推定によると、仮に生涯で100ミリシーベルトの線量を受けた人が1000人いた

放射線によるがん・白血病の増加

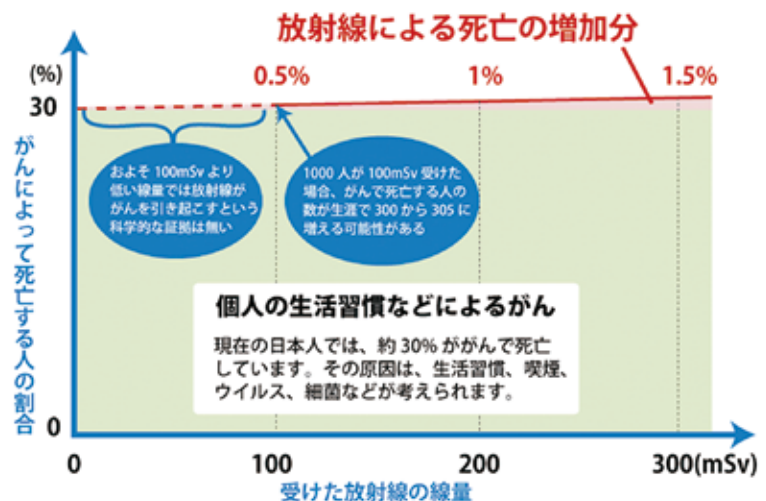


図7 生涯で100ミリシーベルト被ばくした際のがん・白血病の増加(推計) 放射線医学総合研究所ホームページより
<http://www.nirs.go.jp/information/info.php?i13>

とすると、がんで亡くなる方が300名から305名に増加する可能性があると考えられています。なお、ここでいう100ミリシーベルトには、自然界から受ける放射線量は含まれません。現在の一般公衆の追加被ばく線量である年間1ミリシーベルトを受けたとして計算すると、100年かかることとなります。

Q9. 食品には、微量ですが放射性物質が含まれています。食べても大丈夫なのですか？

A9. 暫定規制値以下の食品であれば食べても安全です。安全性を確認するため、農産物では、地域ごとに、出荷時期に先駆けたモニタリング検査が行われており、計画的な検査が実施され、結果が公表されています。

- Q4の図4からわかるように、食品中には、もともと自然界に存在していたごく微量の放射性物質（1kg当たり数十から数百ベクレル程度）が含まれています。その中で人間はこれまでも健康的に生活してきており、暫定規制値以下であれば問題はありません。
- 栃木県産農産物や水道水などの検査結果については、県庁ホームページから公表されています。
栃木県庁ホーム > くらし・環境 > 防災 > 東日本大震災に関する総合情報
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kinkyu/jishin.html>

Q10. 学校農園で作った野菜などを食べても大丈夫でしょうか？

A10. その地域の野菜などについて、県で検査を行って安全性が確認されていれば、心配ありません。

- 県で行っている農作物のサンプリング調査などにより地域内の農作物についての安全が確認されていれば、同様に安全であると考えて差し支えないでしょう。
- 肥料の成分であるカリウムが不足すると、カリウムに化学的性質が似ている放射性セシウムを根から吸収しやすくなります。学校農園でも肥料を適切に与えることで、放射性物質の吸収を少なくすることができます。また、深くよく耕すことで、根からの放射性セシウムの吸収を抑えることができます。

Q11. 落ち葉などで作った腐葉土や堆肥は使っても大丈夫でしょうか？

A11. 落ち葉を一カ所に集めることで、結果的に放射性物質の濃度が高くなる可能性がありますので、当分の間、落ち葉による腐葉土や堆肥づくりは避けましょう。

- ひとつひとつの木の葉自体に含まれる放射性物質はごく微量ですが、一カ所に集めることで結果として濃縮されて放射性物質の濃度が高まり、腐葉土や堆肥として使用できない水準になってしまふことがあります。
- 落葉広葉樹の場合は今年の落ち葉からは放射線量が少なくなっていることが期待できます。しかし、落葉広葉樹林でこの3月に落ち葉であったものは、放射性物質が付着していると考えられます。
- 万一、すでに作ってある腐葉土や堆肥から高い放射線量が測定された場合、まずは使用をせず、飛散しないように管理したり、児童生徒が近づかないようにしたりするなどの措置の検討が必要です。

Q12. 児童生徒の放射線被ばくを少なくするために、どんなことができますか？

A12. 内部被ばくを避けるには、放射性物質を体内に入れないようにすることです。外部被ばくについては、放射線量の高いところには、近づかせないことです。

- 内部被ばくを避けるには、次のようなことが有効です。
 - ・うがい、手洗いを励行する。
 - ・ほこりが立つ時期にマスクを着用する。

・放射線量の高いところ（マイクロホットスポット）となりやすい場所の特徴を教え、自分で気を付けさせる。

- 外部被ばくを避けるには、放射線量が高い場所で長時間活動させないか、そうした場所に児童生徒を近づかせないようにします。また、コンクリートなどの建物は放射線を遮る効果があります。
- マイクロホットスポットになりやすいところを、線量計で測定し、児童生徒を近づかせない措置をとります。測定の際は、放射性物質からの放射線の影響が少ない場所も測定して比較するとよいでしょう。
- 上記の措置をする一方で、児童生徒が放射線を必要以上に怖がらないような配慮をすることも大切です。

Q13. 校内のマイクロホットスポットの除染は、どのように行えばよいのですか？

A13. 放射線量の高い場所の土を除去する、コンクリートの床や壁を高圧洗浄機で洗うなどの方法がありますが、除染を行うかどうかの検討が必要です。

- 児童生徒の立ち入りの制限が難しく頻繁に利用しなければならない場所で、放射線量が基準値を上回る場合は、応急的にできる範囲での除染を行うかどうか、検討する必要があります。
- 除染については、各自治体によって方法が検討されているところです。学校で除染を行おうとする際は、事前に所在地の自治体に相談するなどしてください。
- すでに学校などの除染を行っている自治体の例では、洗浄による除染の効果は一様ではなく、コンクリートやアスファルトなどでは、放射線量があまり下がらないこともあります。また、除去した土壌などは最終的な処分に至らず、一時保管にとどまっている現状です。
- 除染方法について検討する際は、次の資料が参考になります。また、マスクをしたり、手袋や帽子などで皮膚の露出を避けたりするなどして、作業者の被ばくを避ける必要があります。
 - ・「生活空間における放射線量低減化対策に係る手引き<第二版>」福島県、平成23年10月31日
<http://www.pref.fukushima.jp/j/tebiki1031.pdf>
「要約版《第二版》」福島県、平成23年10月31日
http://www.cms.pref.fukushima.jp/download/1/jyosen_1125panfu.pdf

Q14. 追加被ばく線量年間1ミリシーベルトという値は、本当に安全なのですか？

A14. 世界的に見てもかなり厳しく制限された値であり、多くの専門家が安全であるとしています。また、この値は目安として定めるものであり、年間1ミリシーベルトを超えたからといって、必ず被害が出るということではありません。

- 図8の右側を見ると、自然界にはいろいろな放射線が存在し、日本での平均は、年間1.5ミリシーベルトであることがわかります。世界にはもっと高い放射線量を受けている地域がありますが、放射線によるガン発生率が高いという報告はありません。
- 図8の左側の「一般公衆の年間線量限度」は、自然放射線及び病院などで受ける放射線を除き、1年間に受ける放射線量（追加被ばく線量）の限度が1ミリシーベルトであるということです。これは、学校においても目指すべきとされている値です。また、生涯積算線量が100ミリシーベルト以下であれば「がん死亡が増えるという明確な証拠がない」とされており、年間1ミリシーベルトはその100分の1の値です。
- 原子力災害対策本部により、「長期的な目標として追加被ばく線量を年間1ミリシーベルト以下になることを目指すこと」が示されています。これを、屋外8時間、木造家屋内16時間の生活パターンで1時間当たりに換算すると、次のようになります。

長期的目標：追加被ばく線量＝年間1ミリシーベルト

1ミリシーベルト ÷ (8時間+0.4*1×16時間) ÷ 365日 = 毎時0.19マイクロシーベルト

0.19 + 0.04*2 = 毎時0.23マイクロシーベルト

*1：木造家屋の遮へい効果の割合

*2：通常のNaI闪烁式サーベイメータで測定する際に加わる大地からの放射線分

○ いわゆる「基準値」については、暫定的に定めた規制値や自治体の判断で定めた基準値があったり、食品などと空間線量で異なるため、どれを信じてよいのかと不安になったりするところですが、自然放射線と医療放射線を除いた「追加被ばく線量」を「年間1ミリシーベルトとする」ことをよりどころに考えられているものです。現在の国の方針は「長期的な目標」であることや、「年間1ミリシーベルト」が私たちの健康を守ることを考えた厳しい基準であること考えると、毎時0.23マイクロシーベルトを超えたとしても、健康被害を生じてしまうような値ではありません。

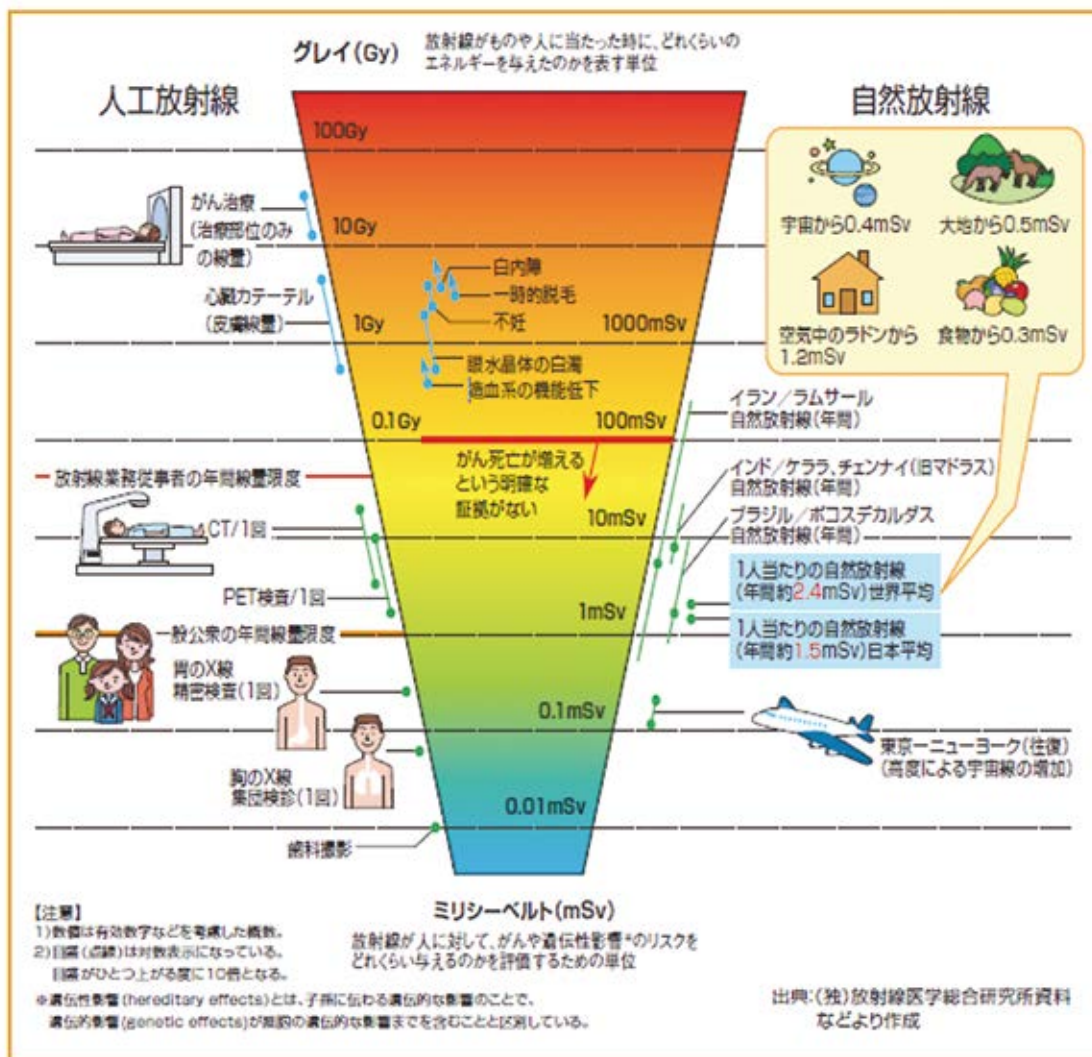


図8 身の回りの放射線被ばく

「知ることから始めよう 放射線のいろいろ 中学生のための放射線副読本」(文部科学省)より

【監修】 菊地 透 自治医科大学RIセンター管理主任、医療放射線防護連絡協議会専務理事
 夏秋 知英 宇都宮大学農学部教授、バイオサイエンス教育センター長

・このブックレットは、放射線に関する専門家の講話の内容と、すでに公表されている資料等をもとに、栃木県教育委員会事務局学校教育課が作成したものです。記載したデータは、出典により異なる場合があります。

・栃木県教育委員会ホームページからダウンロードできます。ホーム > 教育・文化 > 学校教育 > 学習指導

問合せ先 栃木県教育委員会事務局学校教育課 電話：028-623-3392、3382



引渡しカード（例）

引渡し場所	<input type="checkbox"/> 学 校 ()		
	<input type="checkbox"/> 避難所 ()		
	<input type="checkbox"/> その他 ()		
引渡し日時	年 月 日 時 分		
引取り人	氏名	続柄	確認印
引取り先 (自宅・避難先など)			
引渡し教職員	氏名		確認印

引渡し事前確認表（例）

年 組 番	ふりがな	性 別	男 ・ 女
	氏 名		
在校する兄弟姉妹	年 組 氏名		
	年 組 氏名		
保護者	ふりがな	続 柄	
	氏 名	連絡先(tel)	
現住所(tel)	(- -)		
緊急時連絡先及び 引取り人	氏名	続柄	連絡手段(連絡先) ・ ・ ・
	氏名	続柄	連絡手段(連絡先) ・ ・ ・
	氏名	続柄	連絡手段(連絡先) ・ ・ ・
上記の連絡・引取り が不可能な場合 や、通信手段が途 絶えた場合の対応	例) ○年○組○○君のお宅とは徒歩5分以内であるため、緊急時には早く迎えに行ける方が子供たちを引取ることを約束している。		

学校施設の安全管理に関するチェック表

ガス設備

- ガスの元栓は全て締めてあるか。(事前にガス使用箇所の一覧表を作成しておく)
- ガスポンペが破損、転倒していないか。
- ガス配管の破損によるガス漏れはないか。
- ガス器具に異常はないか、またガス漏れはないか。

電気設備

- 電線の切断、緩みはないか。
- 電気器具類のコンセントは全て引き抜いてあるか(通電時に危険)
- 引込線や引込柱に異常はないか。
- 各種照明器具の垂れ下がり、落下はないか。
- 各分電盤に異常がないか。(扉等が開き状態になっていないか)

給水設備

- 埋設配管の破損による漏水はないか。
- 受水槽や高架タンクに亀裂等はないか。
- 機械室(ポンプ室)内に異常はないか。
- 消火栓に異常はないか。
- 止水栓に異常はないか。

浄化槽設備

- ブローア一室内に異常はないか。
- 浄化槽本体にヒビ割れ、破損はないか。
- 浄化槽内部の各種機器に異常はないか。
- 浄化槽の流入水量に異常はないか。埋設配管の破損による漏水はないか。

電話及び校内放送施設・設備

- 外線電話が正常に使用できるか。
- 緊急電話回線の確保をしたか。
- 校内電話が正常に使用できるか。
- 校内放送が正常に使用できるか。

校庭等

- 地面、コンクリート舗装等に亀裂、陥没はないか。
- U字溝、土留め等に異常はないか。
- 防球ネットの支柱が傾いたり、倒れかかっているか。
- グラウンドの照明器具が倒れかかっていたり、落下していないか。
- 野球バックネット倒壊の危険はないか。
- 電柱、電話柱が傾いたり、倒れかかっているか。
- 樹木類が傾いたり、倒れかかっているか。

校舎（建物外部及び内部）

- 外壁にヒビ割れや、破損があり、落下の危険はないか。
- 窓枠が破損し落下の危険はないか。
- 非常階段取付け部分等に亀裂や破損がなく正常に使用できるか。
- ベランダ部分に損傷があり落下の危険はないか。
- 柱・はり・壁・床の部分にヒビ割れや破損はないか。
- エキスパンションジョイント部分に異常はないか。
- 天井のボードが落下したり、取れかかっているかないか。
- 天井吊り金具・天井材（体育館等）に異常はないか。
- 屋上のコンクリート面にヒビ割れ等の異常はないか。
- トタン屋根、瓦屋根に破損はないか。
- 焼却炉の破損による火災等の危険はないか。
- 屋上手すりに欠損や損傷があり危険ではないか。
- 蛍光灯器具等が落下したり、取れかかっているかないか。
- 窓ガラスの破損・飛散による危険箇所はないか。
- 犬走りにヒビ割れや、破損はないか。
- プール本体にヒビ割れや、破損があり漏水していないか。
- プール機械室に異常はないか。
- 化学薬品類のビン等が破損し、異常をきたしていないか。
- 実験台や調理台等が移動し、ガス漏れ、漏水していないか。
- 各種戸棚が倒壊し、通路をふさいでいないか。
- 消火器、消火栓、防火戸が飛出し、通路をふさいでいないか。
- 各種機器の破損、倒壊により電気関係に異常をきたしていないか。
- 暖房器具（石油ストーブ等）の消火は確認したか。

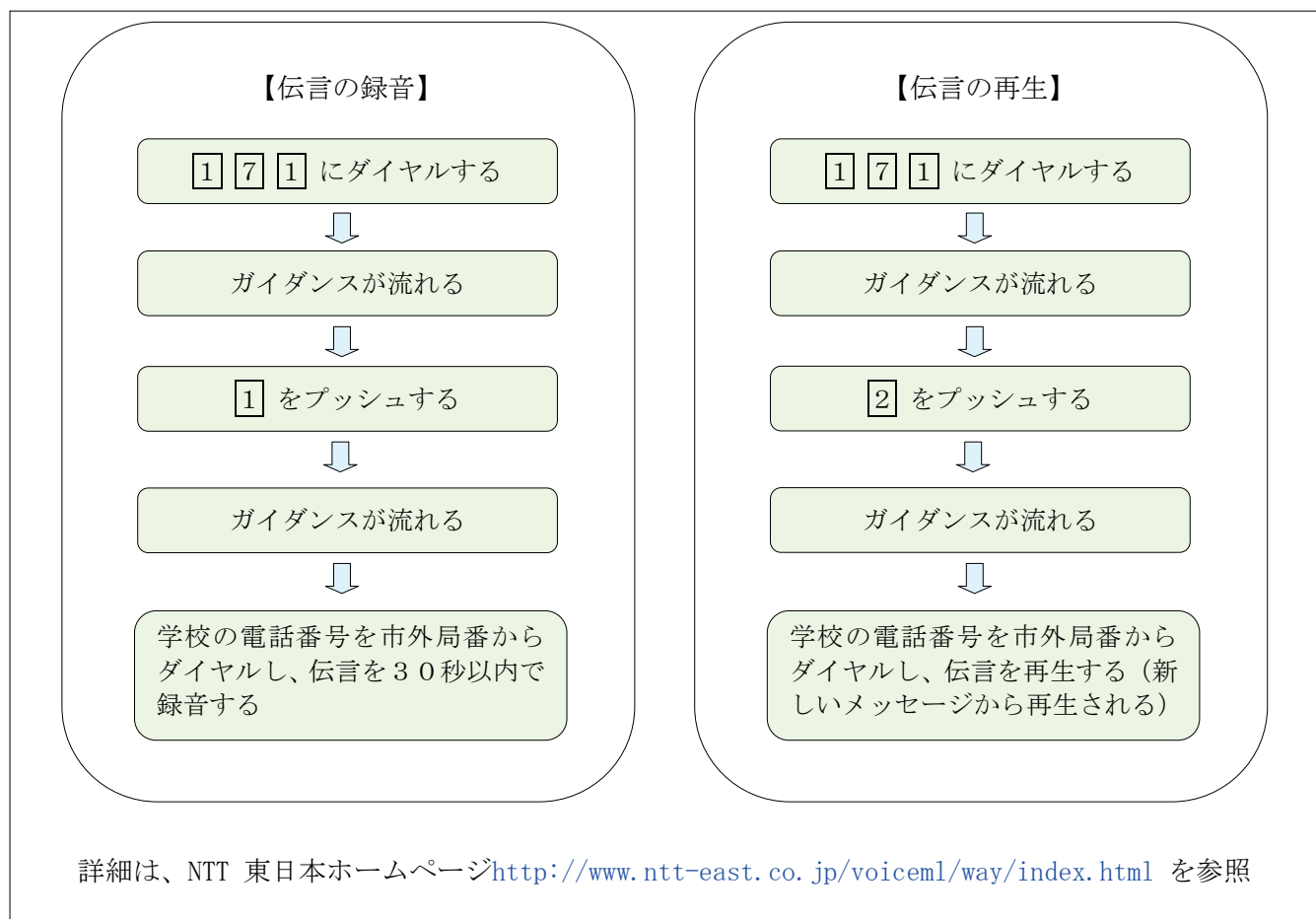
災害時伝言ダイヤルの利用方法

大震災時は一般回線の使用が制限され、電話がつながり難くなることが予想されるので、災害用伝言ダイヤル、電子メール等を活用した連絡体制の整備も検討しておくことが求められる。

例えば、NTT災害用伝言ダイヤル「171」は、大災害発生後に安否確認などの対応として使用できるシステムで、学校が「171」を利用して学校や生徒の状況を伝言で録音し、その録音した伝言を保護者は再生して聞き、生徒の安否等を確認することができる。

《例》

災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法



※ 携帯電話各社は、「災害用伝言板サービス」を提供している。

栃木県教育委員会事務局
学校 教 育 課 長 様

学校番号		学 校 名	
		校 長 名	
		記入者氏名	

災害等発生時における授業等の取扱いについて (報告)

1 措置

【平成 年 月 日の授業時間の変更】

在籍者数	名	欠席者数	名	遅刻者数	名
臨時休業	ア する				
	1 授業を行わない期間				
2 非常変災その他急迫の事情の概要					
3 その他校長が必要と認める事項					
イ しない					
授業時間の変更 (該当箇所に○印:複数可)			授業内容の変更 (該当箇所に○印:複数可)		
ア 変更なし			ア 短縮授業又は一部の授業カット		
イ 始業を遅らせる (時から)			イ 全校集会の実施		
ウ 授業を打ち切る (時から)			ウ ホームルーム活動の実施		
エ その他 ()			エ その他 ()		
※理由			※理由		

2 被害状況

(1) 人的な被害状況

(例) 2年男子生徒 校内の備品が落ちてきて擦過傷、1年女子生徒 割れたガラスで足を切り裂傷、
3年男子生徒 登校途中崖崩れに遭い左大腿骨骨折等

ア 児童生徒について

イ 教職員について

(2) 物的な被害状況・・・別紙報告様式2による

3 現在住民が学校に避難しているか

ア している (避難者 名)

イ していない

(報告様式2)

平成 年 月 日

栃木県教育委員会事務局
学校 教育 課 長 様

学校番号		学 校 名	
		校 長 名	
		記入者氏名	

災害等発生時における学校施設の被害状況について (報告)

1 学校施設の被害状況

【〇〇による学校施設の被害状況結果】

災害日時：

被害名	被害施設名	発見時刻	被害状況	対応状況	その他

(注意) 被害状況が判明次第、随時報告願います。

教育委員会への連絡に関する確認表

No.	確 認 項 目	確認欄
1	児童生徒・教職員の安全確認をしたか。	
2	学校の被災状況を把握し、県教育委員会・市町教育委員会との連携を図っているか。	
3	ライフラインの被害状況を把握し、関係諸機関と連携を図っているか。	
4	避難生活が長期化している学校においては、応急教育活動と避難生活との調整について市町または県教育委員会と協議しているか。	
5	応急教育計画を立てるとともに授業再開日を決定し、児童生徒へ連絡したか。	
6	教科書の滅失状況を調査し、その供給手続きを図っているか。	

緊急時連絡先（記入用紙）

No.	機 関 名・担 当 課 室 名 等		連 絡 先	
1	県 教 育 委 員 会 事 務 局	総務課	企画調整担当	028-623-3353
			停電時使用可能電話	028-623-2772
		施設課	施設担当	028-623-3372・3373
			財務担当	028-623-3374
			停電時使用可能電話	028-623-2773
		教職員課	県立学校人事担当	028-623-3396・3397
			小中学校人事担当	028-623-3385・3386・3369
			停電時使用可能電話	028-623-2774
		学校教育課	高等学校教育担当	028-623-3382・3383・3394
			総務担当	028-623-3389
			小中学校教育担当	028-623-3390・3392
			児童生徒指導推進室	028-623-3359
			停電時使用可能電話	028-623-2775
		特別支援教育室	特別支援教育担当	028-623-3381
			停電時使用可能電話	028-623-2776
		生涯学習課	停電時使用可能電話	028-623-2777
スポーツ振興課	停電時使用可能電話	028-623-2778		
文化財課	停電時使用可能電話	028-623-2779		
健康福利課	停電時使用可能電話	028-623-2780		
教育事務所				
2	市 町 教 育 委 員 会			
3	県税事務所			
4	土木事務所			
5	市町村消防本部			
6	医療機関			
7	学校医			
8	健康福祉センター			
9	電力会社			
10	ガス会社			
11	NTT			
12	警察署			
13	交通機関(鉄道)			
14	交通機関(バス)			
15				

市町村別指定避難場所一覧表（県立学校関係）

市 町	No.	指定避難場所	電話番号	所在地	備 考
宇都宮市	1	宇都宮高校	028-633-1426	宇都宮市滝の原 3-5-70	
	2	宇都宮南高校	028-653-2081	宇都宮市東谷町 660-1	
	3	宇都宮女子高校	028-633-2315	宇都宮市操町 5-19	
	4	宇都宮中央女子高校	028-622-1766	宇都宮市若草 2-2-46	
	5	宇都宮白楊高校	028-661-1525	宇都宮市今泉町 2021	
	6	宇都宮商業高校	028-622-0488	宇都宮市大曾 3-1-46	
栃木市	7	栃木高校	0282-22-2595	栃木市入舟町 12-4	
	8	栃木女子高校	0282-23-0220	栃木市菌部町 1-2-5	
	9	栃木農業高校	0282-22-0326	栃木市平井町 911	
	10	栃木工業高校	0282-22-4138	栃木市岩出町 129	
	11	栃木商業高校	0282-22-0541	栃木市片柳町 5-1-30	
	12	学悠館高校	0282-20-7073	栃木市河合町 12-2	
	13	栃木翔南高校	0282-24-4739	栃木市大平町川連 370	
佐野市	14	佐野高校	0283-23-0161	佐野市天神町 761-1	
	15	佐野東高校	0283-23-0239	佐野市金屋下町 12	
	16	佐野桜桜高校	0283-25-1313	佐野市出流原町 643-5	
	17	田沼高校	0283-62-3411	佐野市栃本町 301	
鹿沼市	18	鹿沼高校	0289-62-5115	鹿沼市万町 960	
	19	鹿沼南高校	0289-75-2231	鹿沼市みなみ町 8-73	
日光市	20	今市高等学校	0288-22-0148	日光市千本木 432	
	21	今市工業高等学校	0288-21-1127	日光市荊沢 615	
	22	日光明峰高等学校	0288-53-0264	日光市久次良町 104	
小山市	23	小山高等学校	0285-22-0236	小山市若木町 2-8-51	
	24	小山南高等学校	0285-45-2424	小山市間々田 23-1	
	25	小山西高等学校	0285-37-1188	小山市松沼 741	
	26	小山北桜高等学校	0285-49-2932	小山市東山田 448-29	
	27	小山城南高等学校	0285-27-1245	小山市西城南 4-26-1	

真岡市	28	真岡高等学校	0285-82-3413	真岡市白布ヶ岡 24-1	
	29	真岡女子高等学校	0285-82-2525	真岡市台町 2815	
	30	真岡北陵高等学校	0285-82-3415	真岡市下籠谷 396	
	31	真岡工業高等学校	0285-82-3303	真岡市寺久保 1-2-9	
大田原市	32	大田原高等学校	0287-22-2042	大田原市紫塚 3-2651	
	33	大田原女子高等学校	0287-22-2073	大田原市元町 1-5-43	
	34	黒羽高等学校	0287-54-0179	大田原市前田 780	
矢板市	35	矢板東高校	0287-43-1243	矢板市東町 4-8	
那須塩原市	36	那須拓陽高等学校	0287-36-1255	那須塩原市下永田 4-3-52	
	37	那須清峰高等学校	0287-36-1155	那須塩原市下永田 6-4	
さくら市	38	さくら清修高等学校	028-682-4500	さくら市氏家 2807	
那須烏山市	39	烏山高校	0287-83-2075	那須烏山市中央 3-9-8	
下野市	40	石橋高等学校	0285-53-2517	下野市石橋 845	
益子町	41	益子芳星高校	0285-72-5525	益子町塙 2382-1	
茂木町	42	茂木高校	0285-63-1201	茂木町茂木 288	
塩谷町	43	塩谷高校	0287-45-1101	塩谷町大宮 2579-1	
高根沢町	44	高根沢高校	028-676-0531	高根沢町文挾 32-2	
那須町	45	那須高等学校	0287-72-0075	那須町寺子乙 3932-48	

地域災害対策活動拠点（県立学校）

	施設名	電話番号	所在地	備考
1	宇都宮高等学校	028-633-1426	宇都宮市滝の原 3-5-70	
2	宇都宮東高等学校	028-656-1311	宇都宮市石井町 3360-1	
3	宇都宮南高等学校	028-653-2081	宇都宮市東谷町 660-1	
4	宇都宮北高等学校	028-663-1311	宇都宮市岩曾町 606	
5	宇都宮清陵高等学校	028-667-6251	宇都宮市竹下町 908-3	
6	宇都宮女子高等学校	028-633-2315	宇都宮市操町 5-19	
7	宇都宮中央女子高等学校	028-622-1766	宇都宮市若草 2-2-46	
8	宇都宮白楊高等学校	028-661-1525	宇都宮市元今泉 8-2-1	
9	宇都宮工業高等学校	028-678-6500	宇都宮市雀宮町 52	
10	宇都宮商業高等学校	028-622-0488	宇都宮市大曾 3-1-46	
11	鹿沼高等学校	0289-62-5115	鹿沼市万町 960	
12	鹿沼東高等学校	0289-62-7051	鹿沼市千渡 2050	
13	鹿沼南高等学校	0289-75-2231	鹿沼市みなみ町 8-73	
14	鹿沼商工高等学校	0289-62-4188	鹿沼市花岡町 180-1	
15	今市高等学校	0288-22-0148	日光市千本木 432	
16	今市工業高等学校	0288-21-1127	日光市荊沢 615	
17	日光明峰高等学校	0288-53-0264	日光市久次良町 104	
18	上三川高等学校	0285-53-2367	上三川町多功 994-4	
19	石橋高等学校	0285-53-2517	下野市石橋 845	
20	小山高等学校	0285-22-0236	小山市若木町 2-8-51	
21	小山南高等学校	0285-45-2424	小山市間々田 23-1	
22	小山西高等学校	0285-37-1188	小山市松沼 741	
23	小山北桜高等学校	0285-49-2932	小山市東山田 448-29	
24	小山城南高等学校	0285-27-1245	小山市西城南 4-26-1	
25	栃木高等学校	0282-22-2595	栃木市入舟町 12-4	
26	栃木女子高等学校	0282-23-0220	栃木市菌部町 1-2-5	
27	栃木農業高等学校	0282-22-0326	栃木市平井町 911	
28	栃木工業高等学校	0282-22-4138	栃木市岩出町 129	
29	栃木商業高等学校	0282-22-0541	栃木市片柳町 5-1-30	
30	学悠館高等学校	0282-20-7073	栃木市沼和田町 2-2	
31	栃木翔南高等学校	0282-24-4739	栃木市大平町川連 370	
32	壬生高等学校	0282-82-0411	壬生町藤井 1194	
33	佐野高等学校	0283-23-0161	佐野市天神町 761-1	
34	佐野東高等学校	0283-23-0239	佐野市金屋下町 12	
35	佐野松桜高等学校	0283-25-1313	佐野市出流原町 643-5	
36	足利高等学校	0284-41-3573	足利市本城 1-1629	
37	足利南高等学校	0284-72-3118	足利市下洪垂町 980	
38	足利女子高等学校	0284-41-2171	足利市有楽町 836	
39	足利工業高等学校	0284-21-1318	足利市西宮町 2908-1	
40	足利清風高等学校	0284-62-2011	足利市山下町 2110	
41	真岡高等学校	0285-82-3413	真岡市白布ヶ丘 24-1	
42	真岡女子高等学校	0285-82-2525	真岡市台町 2815	
43	真岡北陵高等学校	0285-82-3415	真岡市下籠谷 396	
44	真岡工業高等学校	0285-82-3303	真岡市寺久保 1-2-9	
45	益子芳星高等学校	0285-72-5525	益子町塙 2382-1	
46	茂木高等学校	0285-63-1201	茂木町茂木 288	
47	烏山高等学校	0287-83-2075	那須烏山市中央 3-9-8	

48	馬頭高等学校	0287-92-2009	那珂川町馬頭 1299-2	
49	大田原高等学校	0287-22-2042	大田原市紫塚 3-2651	
50	大田原女子高等学校	0287-22-2073	大田原市元町 1-5-43	
51	黒羽高等学校	0287-54-0179	大田原市前田 780	
52	那須拓陽高等学校	0287-36-1225	那須塩原市下永田 4-3-52	
53	那須清峰高等学校	0287-36-1155	那須塩原市下永田 6-4	
54	那須高等学校	0287-72-0075	那須町寺子乙 3932-48	
55	黒磯高等学校	0287-62-0101	那須塩原市豊町 6-1	
56	黒磯南高等学校	0287-63-0373	那須塩原市上厚崎 747-2	
57	矢板高等学校	0287-43-1231	矢板市片俣 618-2	
58	矢板東高等学校	0287-43-1243	矢板市東町 4-8	
59	高根沢高等学校	028-676-0531	高根沢町文挾 32-2	
60	さくら清修高等学校	028-682-4500	さくら市氏家 2807	

災害時における市町連絡先

市町	所管課	連絡先	勤務時間外の連絡先
宇都宮市	危機管理課（危機管理グループ） u2135@city.utsunomiya.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 028-632-2052	<i>携帯電話</i> 080-6502-4124
		<i>NTT-FAX</i> 028-632-7123	// 080-6502-4125
足利市	経営管理課（危機管理担当） keiei@city.ashikaga.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0284-20-2247	<i>NTT-TEL</i> 0284-20-2222
		<i>NTT-FAX</i> 0284-21-1384	
栃木市	消防防災課（消防防災担当） syoubou@city.tochigi.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0282-21-2703	<i>NTT-TEL</i> 0282-21-2168
		<i>NTT-FAX</i> 0282-21-2323	
佐野市	危機管理課（防災係） kiki@city.sano.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0283-20-3056	<i>NTT-TEL</i> 0283-20-3056
		<i>NTT-FAX</i> 0283-22-9104	
鹿沼市	総務課（防災対策室） soumu@city.kanuma.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0289-63-2158	<i>NTT-TEL</i> 0289-63-2281
		<i>NTT-FAX</i> 0289-63-2143	
日光市	総務課（行政係） soumu@city.nikko.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0288-21-5130	<i>NTT-TEL</i> 0288-22-1111
		<i>NTT-FAX</i> 0288-21-5137	
小山市	行政経営課（行政総務係） soumu3@city.oyama.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-22-9318	<i>NTT-TEL</i> 0285-22-1119
		<i>NTT-FAX</i> 0285-22-8972	
真岡市	安全安心課（消防防災係） anzen@city.moka.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-83-8396	<i>NTT-TEL</i> 0285-82-0119
		<i>NTT-FAX</i> 0285-83-8392	
大田原市	総務課（防災担当、総務防災係） soumu@city.ohawara.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-23-8702	<i>NTT-TEL</i> 0287-23-1111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0287-22-4485	<i>NTT-TEL</i> 0287-22-3152【夜間】
矢板市	総務課（行政担当） yait911@apricot.ocn.ne.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-43-1113	<i>NTT-TEL</i> 0287-43-1111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0287-43-2292	<i>NTT-TEL</i> 0287-44-2511【夜間】
那須塩原市	総務課（行政係） c-soumu@city.nasushiobara.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-62-7111	<i>NTT-TEL</i> 0287-62-7111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0287-62-7220	<i>NTT-TEL</i> 0287-62-0736【夜間】
さくら市	総務課（危機管理係） soumu@city.tochigi-sakura.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 028-681-1111	<i>NTT-TEL</i> 028-681-1111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 028-682-0360	<i>NTT-TEL</i> 028-682-0119【夜間】
那須烏山市	総務課（消防交通係） sohmu@city.nasukarasuyama.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-83-1111	<i>NTT-TEL</i> 0287-83-1111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0287-84-3788	<i>NTT-TEL</i> 0287-82-2009【夜間】
下野市	生活安全課（消防交通防災グループ） seikatsu@city.shimotsuke.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-40-5555	<i>NTT-TEL</i> 0285-40-5555【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0285-40-5572	<i>NTT-TEL</i> 0285-53-1119【夜間】
上三川町	総務課（交通防災係） soumu01@town.kaminokawa.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-56-9115	<i>NTT-TEL</i> 0285-56-9111【昼間】
		<i>NTT-FAX</i> 0285-56-6868	<i>NTT-TEL</i> 0285-53-1119【夜間】

益子町	総務課（消防交通係） soumu@ms.town.mashiko.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-72-8826 <i>NTT-FAX</i> 0285-72-6430	<i>NTT-TEL</i> 0285-82-0119
茂木町	総務課（消防防災係） soumu@town.motegi.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-63-5632 <i>NTT-FAX</i> 0285-63-0459	<i>NTT-TEL</i> 0285-82-0119
市貝町	総務企画課（消防交通係） ichisho01@town.ichikai.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0285-68-1111 <i>NTT-FAX</i> 0285-68-3227	<i>NTT-TEL</i> 0285-82-0119
芳賀町	総務課（地域安全対策係） tiikianzen@town.haga.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 028-677-6029 <i>NTT-FAX</i> 028-677-3123	<i>NTT-TEL</i> 0285-82-0119
壬生町	総務課（消防交通係） soumu@town.mibu.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0282-81-1808 <i>NTT-FAX</i> 0282-82-8262	<i>NTT-TEL</i> 0282-81-1808【昼間】 <i>NTT-TEL</i> 0282-81-1808【夜間】
野木町	総務課（消防防災係） soumu@town.nogi.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0280-57-4112 <i>NTT-FAX</i> 0280-57-4190	<i>NTT-TEL</i> 0280-57-4220【昼間】 <i>NTT-TEL</i> 0280-57-1119【夜間】
岩舟町	総務課（消防管財担当） soumu@town.iwafune.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0282-55-7752 <i>NTT-FAX</i> 0282-55-4910	<i>NTT-TEL</i> 0282-55-7752【昼間】 <i>NTT-TEL</i> 0282-55-7752【夜間】
塩谷町	総務課（地域安全担当） soumu@town.shioya.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-45-1111 <i>NTT-FAX</i> 0287-45-1840	<i>NTT-TEL</i> 0287-45-0090
高根沢町	地域安全課 危機管理担当 anzen@town.takanezawa.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 028-675-8110 <i>NTT-FAX</i> 028-675-2409	<i>NTT-TEL</i> 028-675-8110【昼間】 <i>NTT-TEL</i> 028-675-1711【夜間】
那須町	総務課（総務行政グループ） somu@town.nasu.tochigi.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-72-6901 <i>NTT-FAX</i> 0287-72-1133	<i>NTT-TEL</i> 0287-72-6901【昼間】 <i>NTT-TEL</i> 0287-62-0736【夜間】
那珂川町	総務課（消防交通係） syoubo@town.tochigi-nakagawa.lg.jp	<i>NTT-TEL</i> 0287-92-1111 <i>NTT-FAX</i> 0287-92-2406	<i>NTT-TEL</i> 0287-92-2800

学校における防災関係指導資料

—東日本大震災から学んだ大地震への備え及び竜巻への対応—

発行 平成25年9月

栃木県教育委員会事務局学校教育課
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3382 FAX 028-623-3399

